

製品名: ALAD ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87491**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:50-1:500
分子量	Calculated MW:36 kDa; Observed MW:36 kDa

抗原情報

遺伝子名	ALAD
別名	PBGS; ALADH
遺伝子ID	210
SwissProt ID	P13716
免疫原	ヒトALADの合成ペプチド

背景

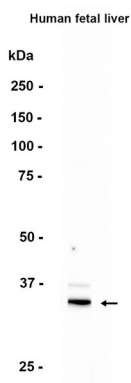
ALAD酵素は8つの同一サブユニットから構成され、2分子のデルタ-アミノレブリン酸を縮合させてポルフォピリノーゲン（ヘム、

シトクロム、その他のヘムタンパク質の前駆体) を生成する反応を触媒します。ALAD はポルフィリンおよびヘム生合成経路の第二段階を触媒し、酵素活性には亜鉛が不可欠です。ALAD 酵素活性は鉛によって阻害され、ALAD 構造遺伝子の欠陥は鉛中毒および急性肝性ポルフィリン症に対する感受性の増大を引き起こす可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2015 年 12 月]

研究分野

-

画像データ



ALAD ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、ヒト胎児肝臓組織抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。